



K220.72

47

1

一、中等教育の要旨は實用に適せしめんとするにあり。習字科豈獨然らざらんや。而して其の實用尤も多きは寧ろ細字にありて、大字にあらず。然れども、小を學ぶは必ず大よりす。本書大字を先きにすると共に細字の料を多くせるは、其の微意茲にあり。

一、本書の書體は教授要目の示す所に従ひ、第一二學年に於いて楷行を第三學年に於いて行草を課せり。且一學年大凡四十週を標準とし毎週習練せしむべき字數は二頁とし、隔週毎に淨書せしむるものとす。

明治四十四年二月

編者 識

東東間間

容容裁裁

使便。過遇。

陶胸。熱熟。

義ハ泰山ヨリモ重ク
命ハ鴻毛ヨリモ輕シ。

人ニヨリテ事ヲ成サ
ムト欲スル者ハ危シ。

看板廣告帳簿。

座敷蒲團茶碗。

明鏡モ裏ヲ照サズ。

旅ハ道ヅレ、世ハ情。

宋太宗勤於讀書。自
已至申。然後釋卷。宋

琪以勞瘁為諫。帝曰。
開卷有益。不為勞也。

百年無再生之

我其可曠度乎。

滔。陷。裂。列。藤。籐。

蹤。縱。擊。繫。響。嚮。

花より阿くるみよしの
春れあけぼの見わたきは

もろこきびとをさま人も
大和ごころになりぬべし。

庖丁。俎板。鍋釜。

牛蒡。人參。薤白。

滿招損謙受益。

剛毅木訥近仁。

雨ナホ止マズ。風サヘ吹き出
デタリ。洪水アルベシナド噂
トリドリナリ。我が畑ヲ窺ケ

バ葱ハサナガエ、髪ヲ亂セル
如ク、蕃椒ハ仆レテ地ニ這ヒ
タリ。夜更ケテ風ノ音凄マシ。

願。屆。缺。席。病。氣。

試。驗。答。案。優。等。

水至ツテ清ケレバ魚ナシ。

上
四

人至ツテ察ナレバ徒ナシ。

雲忽ちに来りて前を蔽ひ行
き過よて顧みまば又後を遮
る。されど思ひく如くは雨の

足早からざりしころ嬉しけ
れ。森の中ふえ郭公、斑鳩、山雀
等、口ならし顔に喧しく叫ぶ。

學如不及猶恐失之。

咬得菜根百事可做。

恭儉持已博愛及衆。

成就德器啓發智能。

平重盛資性忠格。沈毅有度量。
嘗啟事中宮。有蛇至膝下。恐其

上六

驚中宮。徐捉其首尾。以袖蔽之。
召源仲綱授之。宮中終無知者。

盛年不重来。

一日難再晨。

及時當勉勵。

歲月不待人。

拜啓久し別進夜し居り候事とて御英
姿の徳ぞ申し候處とてば最近の所當真
正惠とてされませめて敬慕の情を慰めんと

存儀此致切ふ所存容の程甚い奉り候極首

二月一日

西山秋藏

波多野憲太郎様

東京市日本橋區通貳丁目
番地

波多般憲左郎様

平信

封

甲午年三月百

大阪市東區駒籠町
十九番番屋敷

西山秋藏

去年今夜侍清涼。

秋思詩篇獨斷腸。

恩賜御衣今在此。

捧持每日拜餘香。

90009

海石村田浩藏書



明治四十四年二月二十三日印刷
明治四十四年三月五日發行

海石習字帖
定價各金貳拾錢

不許
複製

編輯者	寶文館編輯所
書者	村田浩藏
印刷者	吉岡平助
發行者	大葉久吉

發行所

大阪市東區備後町四丁目三十七番地
東京市日本橋區本石町三丁目十七番地

寶文館

大阪市東區備後町四丁目三十七番地
東京市日本橋區本石町三丁目十七番地

